豊庄だより

第 749 号 2023 年 3 月 20 日

福岡市早良区南庄２－２６－１３
社会福祉法人林生会豊庄保育園
園長　西尾　達

ひまわり組の 19 人のお友だち、卒園、おめでとうございます。園長先生は、きのうの夜、皆さんと過ごした 6 年間のことを振り返っていたため、なかなか眠れませんでした。ようやく眠りについたのですが、そこから今度は長い夢を見ました。そこには大人になったひまわり組の一人ひとりが登場しました。そのお話を今から話します。

早いもので豊庄保育園を卒園してあっという間に 20 年が経ちました。ここは豊庄保育園の園庭、そして今日は 3 月 18 日、「そういえば、この日って、私たちが豊庄保育園を卒園した日じゃない？」と、豊庄保育園の保育士になった**辻口ひなた**さんは、保育園に来ていた**佐伯こはる**さん、**平かずたか**くんに話しかけました。二人は保育園の近くでパン屋さんを開き、豊庄保育園にも給食のパンを納入していて、その打ち合わせに来ていたのです。「20 年か～」という声がして、突然現れたのは、プロのサッカー選手になった**山本かずあき**くんでした。地元のアビスパ福岡のレギュラーとして活躍しています。かずあきくんの話では、**陣内そういく**ん、**美山ゆうと**くんと**古賀まひろ**くんも大阪や東京のチームで中心メンバーとして頑張っているそうです。2 人とは今でも交流があり、「今度、福岡に遠征で来るそうです」と教えてくれました。みんなで応援に行くことを約束しました。パン屋の二人は、「忙しいのでまたね」と言って帰りましたが、その時、「**竹下りおな**さんのケーキ屋さん、行った？プリンがおいしいと評判だよ」と教えてくれました。さっそく訪ねてみることにしました。その話を伝え聞いた同じくケーキ屋さんをしている**大野えな**さんも、「私も行きたい。」と、現在スーパーで商品の展示を担当している**大野ゆな**ちゃんもいっしょに行くことになりました。店はお客さんでいっぱい。竹下さんに人気の秘密を聞くと、「**董てんじん**くんが酪農をしていて、そこで取れる牛乳がおいしくて毎日持ってきてもらいプリンを作っているんだよ」と話してくれました。プリンを食べながら話の輪が広がりました。そこに**道山ふうか**さんがいました。「私、夢だったクレープ屋さんを始めたんだけど、みんな食べに来てくれる」と声をかけ、作ったばかりのポスターをくれました。「とてもよくできたポスターだね」と話すと、「デザインをイラストレーターをしている**菊田あおい**さんにお願いしました」と話してくれました。ここでも「ひまわり組」の絆は続いていました。店を出て、「今日は、20 年前のひまわり組によく出会うなあ」と思っていると、「園長先生、道山さんの店に飾っている商品サンプル、見ましたか？」と話しかけてくる人がいました。**上原なお**さんです。上原さんが作ったということでした。一緒に見ました。本物のようです。見ていると食べたくなり、店に戻り、いろいろあるクレープを食べつくしました。

2018 年 12 月 15 日

おなか一杯になり、店を出て保育園に帰ることにしました。商店街の入り口で、「たしかここに**大迫たける**くんのドーナツ屋さんがあったはず…」と探すと、ありました。お客さんで溢れ、看板が見えなくなっていました。おいしいドーナツでした。おまけもしてくれました。商店街をさらに歩いていると、「仮面ライダーがいるぞ～」という声が聞こえ、家の屋根に仮面ライダーがいました。「仮面ライダー、こっち見て！」というと、仮面ライダーは屋根から飛び降り、みんなのところに握手をしに来ようとしました。その時です。何と滑ってしまい、家のガラスを割ってしまい、地面で苦しんでいました。近づいて見ると、仮面の下から素顔がのぞき、なんと**朝倉ぜんじろう**くんではありませんか。すぐに救急車を呼びました。なぜか消防車とパトカーもやって来て、そこには消防士になった**永良けんた**くん、警察官になった**高城あかり**さんが乗っていました。もう何が何だか分からなくなり、助けを求めると、そこに小学校の先生になった**徳永みゆ**さんがいました。これまでの顛末（てんまつ）を話すと、「これって、物語になりそうね」と言うと、すらすらと書き始め完成させました。今読んでいる話は、その時書いてくれた物語です。タイトルに、「20 年後の私のともだち」と付けられていました。これで園長先生の夢のお話を終わります。

※以上は、卒園式で私が話した原稿です。保護者のみなさんは、「園長の話、これ何？」と思われた方もいらっしゃったのではと思い、その意図をここで書きます。卒園式の主人公は子どもたちです。園長のあいさつも、子どもたちの姿を書かなければと思っています。式でみなさんにお渡ししたオレンジ色の卒園式の式次第の裏に卒園する子どもたちの名前と「おおきくなったら…」が載っています。これは、キンダーブックという教材を使って、クラスで一人ひとりが考えたものです。私は、これを使い全員が登場する話ができないかと考えました。毎年、奇想天外の物語になってしまっていますが、ひまわり組の一人ひとりの顔を思い浮かべ書きました。この作業は毎年、卒園式の前に自身に課していることの 1 つです。

もう一つは、6 年間の写真の掲示です。掲示の作業は白石先生にお願いし、私は膨大な量の写真のデータから、えりすぐりを選び、印刷することでした。卒園式の 1 週間前から選び続け、なんとか前々日に白石先生に渡しました。2階へ上る階段の壁面に掲示したのですが、ふと気づきました。ばら組以降の写真にバラエティーがないことです。すみれ組まで行っていた行事をもっと貼ろう、豊庄では、こんなことをやっていたんだぞということを伝えたくなりました。そこで、親子バスハイク（マリンワールド）、祖父母参観、運動会の綱引き、保護者のパフォーマンス、保育士の出し物、「我が家の子育て奮闘記を語る会」などの様子を追加しました。 ひまわり組は最初の 3 年間がコロナ禍の前、その後の 3 年間がコロナ禍の中での園生活でした。今後、コロナ禍が 3 年続くと、これまでの取り組みを知らないひまわり組になってしまいます。早くコロナ禍が収束することを願っています。